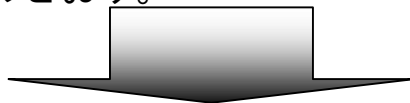


鳥取沿岸の砂浜海岸の現状と課題に基づいた論点整理

- 当該技術検討委員会の開催趣旨や規約に掲げているように、本県では、美しい砂浜海岸を保全・回復させるため、平成17年6月に全国初の取組として「鳥取沿岸の総合的な土砂管理ガイドライン」を策定し、同ガイドラインに基づき国・県・市町村等の各管理者が連携・協力して、構造物の設置を要しない土砂の流れの連続性を確保する対応策（サンドリサイクルやサンドバイパス）を基本原則として、従来方式の局所最適化から脱却し、現在に至っている。
- サンドリサイクル（サンドバイパスを含む）は、河川上流から海岸までの広域的かつ連続的な砂の流れを考慮した「総合的な土砂管理」の1つの工法（手段）である。同ガイドライン策定・実施およびサンドリサイクル導入により、砂浜海岸復元とまでは行かないが、少なくとも砂浜海岸の侵食速度を大幅に鈍化させている。このように一定の効果があるため、同ガイドラインおよびサンドリサイクルを継続して行く。
- サンドリサイクルは、砂を堆積している領域から不足している領域に人工的に移動（輸送）するものであるが、従来の形態では、重機・浚渫船や土運船、重機やトラック等で堆積砂をほぼ毎年のように定期的・定常的に土砂を移動させるため、非効率な面は否めない。
- このことについて、県議会（平成23年2月25日）において取り上げられた事項の対応方針を踏まえ、現状で満足することなく、低コスト化や地球環境保全に配慮し、鳥取県の地域特性に適合した恒久的サンドリサイクルシステム導入を目的として、必要な検討を行う。技術検討のポイント（論点）は次のとおり。



■技術検討のポイント（論点）

「効率的なサンドリサイクル手法の開発（採取から排出までの一連過程の効率化・適正化）」、「その動力源として風力発電等の再生可能エネルギーの利用」を想定した検討に着手

- ⇒ コスト削減や地球環境保全（より安価で低廉な技術開発）を目的として、再生可能エネルギー（マイクログリッド技術）や新たな砂輸送機材を積極的に活用した「恒久的な美しい砂浜海岸復元と港内に堆砂のない港」の実現を目指して、鳥取沿岸の砂浜海岸の復元・港内堆砂抑制に向けた技術検討（恒久的サンドリサイクルシステム〔通称：鳥取方式のサンドリサイクルシステム〕の技術開発）を実施。